

犬島新聞とは？

今、犬島に残っている島民が子どもの頃だった1950年頃、犬島には1,000人近くの方が生活をしていました。しかし、2022年現在ではわずか40人ほどになりました。犬島に生まれ育った私（池田栄）ももう79歳です。70代に入った時、昔の犬島のことを少しでも後世に残せたらと思いましたが、一人ではできないからと、池田貴洋さん（京都からの若手移住者）に相談しました。どうしたら観光客に犬島のことを知ってもらえるだろう？どうしたら島民に昔のことを懐かしんでもらえるだろう？そんな思いから犬島新聞を制作することを決めました。2017年1月の初回発刊以降、犬島の伝統・文化・行事・気候・方言など、さまざまな情報をお届けしてきました。特に、島の今昔写真を収集したり、島民紹介の記事を書くことは、島民のサポートがなければなかなかできないものです。犬島新聞の発起人として、記事執筆においてご協力いただいた皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

そんな犬島新聞も、3年も経つと記事の題材探しに大変苦勞しました。そんな時、島民の中居米子さんや安部智子さんに制作に加わってもらい、色々なアイデアをいただきました。ミーティングと称して、思い出話に花を咲かすのはとても楽しいものです！ 2021年3月、お仕事の都合で貴洋さんが犬島を離れることになりましたが、代わりに岩井智幸さん（2019年に大阪から移住）が仲間に加わり、現在も毎月の発行を続けることができています。そして今年、初回発刊後5年という節目を迎えたタイミングで「犬島新聞5周年記念号」を制作する運びとなりました。過去5年間の第1号から第59号までのすべての新聞を一冊にまとめ、今まで紹介していなかった写真も載せるなど、記念号らしい特別な内容となっています。ぜひお楽しみください。

最後に、これからもつたない新聞ながら、読者に楽しんでいただけるように毎月の発行を続けてまいります。観光客に犬島のことを知ってほしい、島民に昔を懐かしんでもらいたい、そんな初心を忘れずに新聞部4人で力を合わせて頑張ってまいります。今後ともご支援ご声援のほどよろしく願いいたします。

2022年4月 新聞部